

モデルコミ協 活動紹介



連絡先 新潟市市民生活部市民協働課
tel: 025-226-1105

負担を減らし
楽しく続けたい!
私たちの地域活動



高齢化や担い手不足に悩んでいませんか?
これからの時代に合わせて地域活動を見直しましょう!



R1年度 地域懇談会兼地域の活動パワーアップワークショップ
(小合コミ協)

「担い手がいない」「活動が続けられるか…」といった不安や困りごとはありませんか。新潟市では、持続可能な地域づくりを進めるため、地域活動を見直す「コミュニティ協議会育成モデル事業」を令和元年度から進めています。昨年の活動事例を紹介します。

モデル事業では、こんなことを行います

各モデルコミ協に合わせて
内容をアレンジします!



市と専門家のコーディネートのもと、勉強会や調査をモデルコミ協自身が行います。秋葉区の小合地域コミュニティ協議会(以下、小合コミ協)と西区の坂井輪中学校区まちづくり協議会(以下、坂中まち協)がモデルコミ協に選定され、以下の取り組みを行いました。

1

どうして見直しが必要なの?

まずは現状を知ることからスタート!

3年後、5年後、コミ協活動を支える人は地域に何人いるのでしょうか。本事業では人口データ等から現状や将来の人口構成の推移など読み解き、将来の姿を明らかにする勉強会を行います。見直しの意義や目的を理解した上で今後の活動の方向性を探ります。



18歳未満同居世帯率と65歳以上高齢化率の散布図作り(小合コミ協)

2

本当に住民が望んでいる活動なのかな?

中学生以上全住民アンケートの実施

必要に応じて、若者から年配者まで住民の意識を数値で把握するアンケートを実施します。回答結果としっかり向き合うためにアンケートデータ入力もモデルコミ協が自分たちで行います。



※R1年度は小合コミ協でのみ実施

まちづくりアンケート
(小合コミ協)→



3

こんなに会議をしていたのか?!

活動の実態調査と自己評価

現在、コミ協活動にどれくらいの時間・人数をかけて行っているのか、「見える化」してみましょう。「こんなにたくさん?！」と驚かれるのではないのでしょうか。記入シートを活用しながら洗い出し、共有することで、効率よく楽しみながら活動を続ける見直し案が生まれます。



地域活動評価ワークショップ(坂中まち協)





R2年度の活動に見直しの成果を活かしています！
モデル事業に取り組んだ2つのコミ協の事例をご紹介します

令和元年度のモデルコミ協は、小合コミ協と坂中まち協です。市とまちづくりの専門家(NPO法人まちづくり学校)がコーディネートし、以下の取り組みを行いました。

小合地域コミュニティ協議会

世帯数1,249世帯、人口3,887人
 65歳以上の人口割合は35.4%
 2016年9月末の住民基本台帳人口を基に算出

第1回ワークショップ

人口データ(地域カルテ & 国勢調査)から地域の現状と予測される将来の姿を知る

予測される将来に向けて、どんな活動に力を入れるかなど、今後の活動の方向性を探る



中学生以上全住民アンケートの実施

地域住民のニーズを把握する

既存活動の実態を洗い出し、評価する

既存活動の自己検証・評価

第2回ワークショップ

アンケート結果報告
 次年度事業計画案の発表

事業計画や実施体制の見直し案づくり

中学生以上全住民アンケートは、自治会・町内会の協力を得て、各世帯へ直接配布・回収をしたことで高い回収率となりました。
 (配布数:2,913 回収数:2,624 回収率90.08%)



坂井輪中学校区まちづくり協議会

世帯数10,535世帯、人口25,014人
 65歳以上の人口割合は27.6%
 2016年9月末の住民基本台帳人口を基に算出

第1回ワークショップ

人口データ(地域カルテ & 国勢調査)から地域の現状と予測される将来の姿を知る
 ・現在の活動の評価方法を学ぶ

予測される将来に向けて、どんな活動に力を入れるかなど、今後の活動の方向性を探る



活動実績シートの作成

地域活動を事業ごとに、かけている時間や人数、成果などを評価してシートに記入

第2回ワークショップ

・まち協全体の活動内容や課題を共有
 ・活動の見直しアイデア出し

次年度事業計画案の作成

各部会が実施した事業の目的や成果を活動実績評価シートに記入して発表。活動を見直すきっかけとなり、他部会からの助言や励ましが意欲に繋がりました。

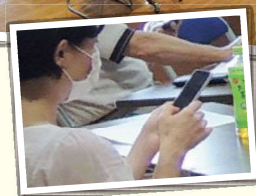


新型コロナに負けず動き始めました！



小合コミ協では、アンケート結果でインターネットやSNS利用率が平均58%、50代で85%と高い数値を示したことから、現在、市の助成金を活用して、LINEやフェイスブックの使い方やホームページの作り方講座を実施しています。役員同士の連絡はLINEで行うようになり、公式アカウントの運用も試みたいそうです。

また、地域の歴史書をまとめる事業を、やりたい人が集まって行う実行委員会形式で行なっています。意欲溢れる人が中心になることで、コミ協役員の負担が減り、楽しみながら活動を進めることができている。



お知らせ

令和元年度の市モデル事業については市のHPに掲載してあります。

https://www.city.niigata.lg.jp/smph/kurashi/shimin/community/model_present.html

また、全コミ協を対象に新型コロナウイルス感染症による活動への影響や、各コミ協の実態をお聞きするアンケートもお届けします。回答へのご協力をお願いいたします。

